

所属名	事務事業名	ページ番号
循環型社会推進課	可燃ごみ等収集運搬事業	2
循環型社会推進課	不燃ごみ収集運搬事業	3
循環型社会推進課	粗大ごみ収集運搬事業	4
循環型社会推進課	資源物収集委託事業	5
循環型社会推進課	清掃工場維持管理運営事業	6
循環型社会推進課	有害ごみ（蛍光灯等）処理事業	7
循環型社会推進課	清掃工場二酸化炭素分離回収設備維持管理事業	8
循環型社会推進課	搬入ごみ予約システム運営経費	9
循環型社会推進課	リサイクル工場維持管理運営事業	10
循環型社会推進課	最終処分場維持管理事業	11
循環型社会推進課	有価物処理事業	12
循環型社会推進課	廃食用油リサイクル事業	13
循環型社会推進課	一般廃棄物収集運搬処理事業（諸富町及び三瀬地区）	14
循環型社会推進課	ごみの堆肥化等リサイクル促進事業	15
循環型社会推進課	ごみ減量啓発事業	16
循環型社会推進課	有料指定袋事業	17
循環型社会推進課	資源物集団回収奨励事業	18
循環型社会推進課	容器包装リサイクル法関連業務	19
循環型社会推進課	事業系ごみ減量・リユース推進事業	20
循環型社会推進課	不法投棄防止対策経費	21
循環型社会推進課	ごみステーション適正管理経費	22
循環型社会推進課	事業系ごみリサイクル推進事業	23
循環型社会推進課	次世代型バイオ燃料実用化事業	24
循環型社会推進課	エコプラザ管理運営事業	25

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	可燃ごみ等収集運搬事業	事業期間	昭和 46 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	「旧佐賀市内の一部」及び「旧久保田町以外の支所管内」に設置されているごみステーションに排出される「可燃ごみ」について業者に委託し、適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	「旧佐賀市内の一部」及び「旧久保田町以外の支所管内」の住民				
令和4年度 主な活動実績	旧佐賀市内の26のブロック及び旧久保田町以外の支所管内のごみステーションに排出される「可燃ごみ」について、民間業者に委託して適正に収集運搬を実施した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	283,829	284,451	285,847		
うち佐賀市の負担額	198,041	197,235	212,010		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
可燃ごみの適正収集率						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100 100	100 100	100	100		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	前年度同様に適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。



成果目標達成に向けた対応策等
今後も研修や、清掃工場内への直接搬入時に不定期の検査などを通じて、委託業者と良好な関係を築きながら適正な収集運搬を行う。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	不燃ごみ収集運搬事業	事業期間	昭和 43 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみステーションに排出される「不燃ごみ」について業者に委託し、適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	市内居住者				
令和4年度 主な活動実績	ごみステーションに排出される「不燃ごみ」について、収集運搬業者に委託して適正に収集運搬を実施した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	40,146	39,341	41,799		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
不燃ごみの適正収集率						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100 100	100 100	100 100	100 100		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	前年度同様に適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。



成果目標達成に向けた対応策等
今後も研修や、清掃工場内への直接搬入時に不定期の検査などを通じて、委託業者と良好な関係を築きながら適正な収集運搬を行う。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	粗大ごみ収集運搬事業	事業期間	平成 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	「粗大ごみ」を清掃工場へ直接搬入して処理することが困難な市民のため、「ステッカー方式」又は「臨時収集方式」により、「粗大ごみ」について適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	市内居住者				
令和4年度 主な活動実績	「ステッカー方式」及び「臨時収集方式」によって、戸別に収集を行う。 「ステッカー方式」では、毎月25日までに市内の金融機関で1個あたり500円のステッカーを購入してもらうことによって、翌月の指定日に収集する。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	21,500	25,764	24,480		
うち佐賀市の負担額	5,681	7,281	7,720		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
粗大ごみの適正収集						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100 100	100 100	100	100		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	前年度同様に適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。



成果目標達成に向けた対応策等
今後も研修や、清掃工場内への直接搬入時に不定期の検査などを通じて、委託業者と良好な関係を築きながら適正な収集運搬を行う。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	資源物収集委託事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみステーションに排出される「資源ごみ」について、収集運搬業者に委託し、適正に収集運搬を行う。				
事業の対象者	市内居住者				
令和4年度 主な活動実績	ごみステーションに排出される「資源ごみ」について、収集運搬業者に委託して適正に収集運搬を実施した。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	99,942	105,942	106,705		
うち佐賀市の負担額	99,942	105,942	106,705		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
資源ごみの適正収集率					%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
100	100 100	100 100	100	100	

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	前年度同様に適正に収集運搬がなされている。研修や指導などを通じて委託業者と良好な関係を築き、今後とも適正な収集運搬を行う。



成果目標達成に向けた対応策等
今後も研修や、清掃工場内への直接搬入時に不定期の検査などを通じて、委託業者と良好な関係を築きながら適正な収集運搬を行う。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	清掃工場維持管理運営事業	事業期間	平成 14 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 施設管理係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場は、本市における可燃ごみの「適正な焼却」と「減容化」を行う主体となる施設である。その運転管理は民間事業者へ委託し、「効果的」かつ「効率的」に業務を実施する。適正に「運転管理」と「施設の維持・管理」を行うことにより、焼却時に発生する有害物質を規制値内に抑えけるとともに、必要な施設機能を維持する。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀市清掃工場運転業務委託 ・佐賀市清掃工場定期点検整備 ・各種設備の法定点検の受審 ・各種環境基準への排出抑制の証明となる計量測定業務委託 ・焼却灰セメント資源化処理業務委託 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,027,331	1,061,879	1,029,425		
うち佐賀市の負担額	672,042	631,816	578,550		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
焼却量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
70,113	73,183 68,549	73,188 68,563	73,193	73,198		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	市内で発生したごみを環境値を超えることなく、安全に処理できている。



成果目標達成に向けた対応策等
施設の老朽化が進んでいること、コロナ禍の影響によるごみの質と量の変動が維持管理上の懸念であるが、プラントメーカーとの協議と情報共有により適正な維持管理を継続する。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	有害ごみ（蛍光管等）処理事業	事業期間	昭和 59 ～ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3 R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市内で収集された使用済み蛍光管や乾電池について、適切かつ一体的に処理するシステムを構築している民間事業者へ委託することで適正に処理する。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	民間事業者へ委託し、廃蛍光管・乾電池等を適正に処理する。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,547	2,871	2,148		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
蛍光管の処理量						kg
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
10,390	10,380 7,990	10,370 6,110	10,360	10,350		

成果指標②						単位
乾電池の処理量						kg
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
0	12,760	12,760 9,400	12,760	12,760		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	収集された使用済み蛍光管及び乾電池については、適正に処理を行っている。



成果目標達成に向けた対応策等
新規リサイクルシステムの動向調査や委託料の精査などを行いながら、引き続き適正に処理を行う。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	清掃工場二酸化炭素分離回収設備維持管理事業	事業期間	平成 28 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 施設管理係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	温暖化防止対策の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場において可燃ごみの焼却時に排出されるガスから二酸化炭素を抽出し、需要家（2者）へ供給を行うことで、本市の増収及び二酸化炭素の排出量削減を図る。 二酸化炭素の抽出及び供給を安定して行うため、設備の維持管理と所要の薬剤購入等を行う。				
事業の対象者	二酸化炭素需要家				
令和4年度 主な活動実績	清掃工場周辺の需要家（ゆめファーム全農SAGA、（株）アルビータ）へ二酸化炭素の供給を行った。 供給量：60,988Nm ³				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	25,297	22,722	20,192		
うち佐賀市の負担額	25,297	17,377	15,636		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
二酸化炭素供給量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
222	222 132	222 119	222	222		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	供給量の実績が目標を下回った。安定した供給のためには、整備を行い維持管理していく必要がある。



成果目標達成に向けた対応策等
供給先が増加することにより、供給量は増加すると見込まれる。引き続き維持管理を行い、安定的な稼働に努める。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	搬入ごみ予約システム運営経費	事業期間	令和 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場及び佐賀市清掃工場南部中継所への、土曜日及び祝日のごみの直接搬入を事前予約制とすることにより、混雑緩和、搬入件数の平準化、場内の安全確保を目的とする。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	令和3年6月から直接搬入の事前予約制を開始したことで、長蛇の搬入待ちの車列は解消され、待ち時間の短縮につながった。 令和4年度は、年末3営業日も予約制としたことで、大きな混乱なく搬入対応できた。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	4,444	8,882	9,439		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
予約率						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
-	80.4	100.0 94.0	100.0	100.0		

成果指標②						単位
土曜日搬入件数（一日平均）						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
151	95 61.4	95 57.0	95	95		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	<ul style="list-style-type: none"> 搬入車両で混雑することがなくなり、待ち時間の解消と安全確保が図られた。 引っ越しなどで複数回の搬入が必要な場合も、計画的な受入が可能となり、利便性が向上している。



成果目標達成に向けた対応策等
<ul style="list-style-type: none"> 土曜・祝日の事前予約制について、引き続き周知を行っていく必要がある。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	リサイクル工場維持管理運営事業	事業期間	平成 16 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	リサイクル工場は、本市において発生した「ペットボトル」、「不燃ごみ」、「紙・布類」、「粗大ごみ」等の選別業務を実施する上で主体となる施設である。その運転管理は民間事業者にて委託し、効果的かつ効率的に業務を実施する。また、施設の設備について適切に整備し、安全な操業を行う。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	○リサイクル工場運転業務委託 リサイクル工場に搬入される不燃ごみ等を選別し、有価物を搬出した。 ○リサイクル工場定期点検整備 リサイクル工場の運営に必要な設備の整備を行い、適正な状態を保った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	95,704	112,679	121,068		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
資源物搬出量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
4,554	4,500 4,692	4,501 4,295	4,502	4,503		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	リサイクル工場への搬入量の減少により、有価物の量も減少している。搬入された不燃ごみ等については、適切に選別し搬出している。



成果目標達成に向けた対応策等
施設内の設備について適正な維持管理を継続しながら、委託している民間事業者との連携を深めることで、より効率的なリサイクル体制の構築を目指す。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	最終処分場維持管理事業	事業期間	昭和 56 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市一般廃棄物最終処分場は、本市における「一般廃棄物」の最終的な処分を行う主体となる施設である。その運転管理は、株式会社佐賀資源化センター（第3セクター企業）に委託し、効果的かつ効率的に業務を実施する。				
事業の対象者	市民				
令和4年度主な活動実績	不燃残さ等を適正に最終処分（埋立て）するとともに、「浸出水処理施設」をはじめとした各種施設や設備類等について適切に維持管理を行った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	36,383	31,864	32,697		
うち佐賀市の負担額	36,383	31,864	32,697		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
最終処分量（埋立量）						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,738	2,733 2,709	2,728 2,586	2,723	2,718		

年度	目標 (t)	実績 (t)
R2	2,733	2,738
R3	2,709	2,709
R4	2,586	2,586
R5	2,723	
R6	2,718	

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

年度	目標	実績
R2	1.0	1.0
R3	1.0	0.5
R4	1.0	0.0
R5	1.0	
R6	1.0	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	人口減少に伴うごみ排出量の減少により、埋め立て量は微減している。



成果目標達成に向けた対応策等
今後も、「浸出水処理施設」をはじめとした各種施設や設備類について適切に維持管理を行い、安定的に事業を継続するとともに、埋立量の縮減に繋がる事業や取り組みについて検討を行う。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

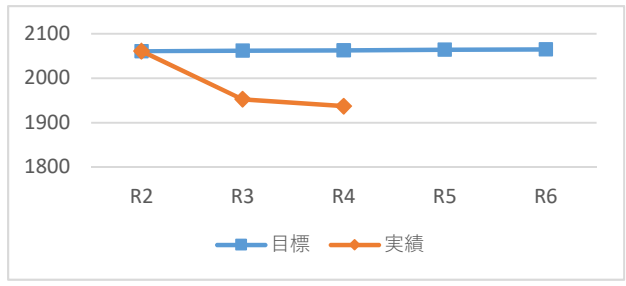
事務事業名	有価物処理事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市一般廃棄物最終処分場に搬入された資源物（ビン、缶類）についての「選別業務」及び選別した有価物の「売却業務」を、株式会社佐賀資源化センター（第3セクター企業）に委託して実施する。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	有価物（ビン、缶類）の選別を適正に行うことにより、リサイクルの促進と埋立量の縮減を図った。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	75,900	71,154	60,413		
うち佐賀市の負担額	75,900	71,154	60,413		

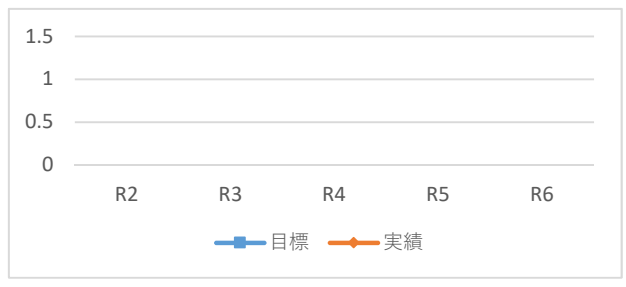
2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
選別した有価物の量（ビン・缶）					t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
2,061	2,062 1,953	2,063 1,937	2,064	2,065	



Year	Target	Actual
R2	2,062	2,061
R3	2,062	1,953
R4	2,063	1,937
R5	2,064	
R6	2,065	

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	



Year	Target	Actual
R2		0
R3		0
R4		0
R5		0
R6		0

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	最終処分場に搬入された資源物（ビン、缶類）の搬入量の減少により、有価物の量も減少している。



成果目標達成に向けた対応策等
今後とも、有価物（ビン、缶類）の選別を適正に行うことにより、リサイクルの促進と埋立量の縮減につなげる。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	廃食用油リサイクル事業	事業期間	平成 16 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市内から排出される廃食用油を、各種公共施設やスーパー等に設置した回収ボックス及び市内事業所から定期的に回収し、清掃工場敷地内の廃食用油再生プラントで高品質バイオディーゼル燃料（HiBD）に精製することで、循環型社会及び脱炭素社会へ貢献する。なお、精製した燃料は市営バス及びごみ収集車等の燃料として利用することで、地域資源循環による再生可能エネルギーの利活用を推進する。				
事業の対象者	廃食用油を排出する市民及び市内事業所				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 回収ボックス及び市内事業所からの廃食用油回収業務（環境保全課） 回収した廃食用油の異物除去業務 民間委託による廃食用油再生（HiBD精製）業務 精製プラントの維持管理業務 廃食用油の保管管理業務 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	7,815	8,673	14,204		
うち佐賀市の負担額	6,467	6,901	11,166		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
高品質バイオディーゼル燃料（HiBD）精製量						ℓ
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,805	26,000 9,796	30,000 27,979	40,000	50,000		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	令和2年度に新プラントを導入、適宜必要な改良や運転方法の改善等に努めてきたところ、令和4年度は品質の安定化が図られてきた。また、精製したHiBDはごみ収集車及び市営バスの燃料等として利用し、地域の資源循環に貢献した。

成果目標達成に向けた対応策等

精製施設の24時間運転が実現すれば精製量の更なる増加が図れるが、長期連続運転時の安定稼働確立、夜間の運転管理体制整備（無人化プログラムの構築）、製品タンク容量等の法的課題などをクリアする必要がある。また、更なる収率向上を目指した精製技術の研究も必要である。今後とも目標達成に向け各種課題の解決、関係機関との調整を進める。

令和5年度 事務事業実績報告シート

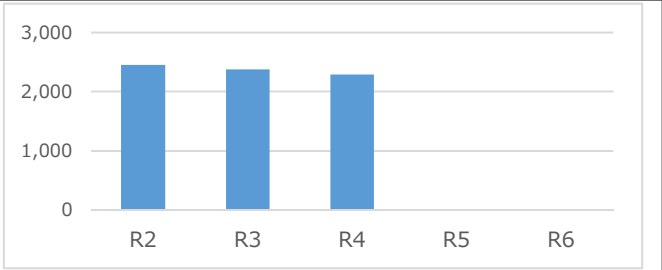
事務事業名	一般廃棄物収集運搬処理事業（諸富町及び三瀬地区）	事業期間	昭和 51 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報


事業概要・目的	現在、諸富町及び三瀬地区から排出される一般廃棄物は、「脊振共同塵芥処理組合（一部事務組合）」において処理していることから、その処理にかかる負担金を支払う。				
事業の対象者	諸富町及び三瀬地区の住民				
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、脊振共同塵芥処理組合格約				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	140,911	141,596	139,766		
うち佐賀市の負担額	135,911	136,596	134,766		

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
一般廃棄物の処理量（旧諸富町及び旧三瀬地区）					t
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
2,452	2,377	2,289			



活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

<p>・脊振共同塵芥処理組合の処理施設は、令和5年度まで稼働する計画であり、令和6年度以降の諸富町及び三瀬地区のごみ処理は、本市が単独で実施する予定となっている。</p>

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ごみの堆肥化等リサイクル促進事業	事業期間	平成 22 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	家庭から排出される燃えるごみの約4割を占める生ごみを中心に、3Rの中で最も優先順位の高いリデュースに特化した事業を展開することで、バイオマス資源である生ごみ等の有効活用を図り、地域資源循環型社会及び脱炭素社会の構築に寄与する。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用生ごみ処理容器等の購入費補助 113件 生ごみ堆肥化や減量方法に精通した団体に委託し、生ごみ減量のサポートや体験型講座を実施 講座実施 56回、サポート 253回 佐賀市清掃工場や佐賀市清掃工場南部中継所に持ち込まれた剪定枝の一部をチップ化し、マルチング材や堆肥の原料として無料で配布 3.24 t 				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	8,448	9,004	8,941		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
家庭系生ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
16,132	15,308 15,688	15,073 15,483	14,884	14,621		

成果指標②						単位
1人1日あたりの家庭系ごみ排出量						g
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
646	615 627	611 616	608	605		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	昨年度と比較して、ごみ減量につなげることはできたが、目標達成にはいかなかった。家庭用生ごみ処理容器等の購入費補助件数は一定数確保できている。また、家庭用電動の生ごみ処理機への購入補助は31件もの申請があり、ごみ減量に一定の効果があったと考える。



成果目標達成に向けた対応策等
市民一人ひとりがごみ減量の取り組みを日頃から意識して実践してもらえるよう、食品ロスをはじめとするごみの分別やリサイクルについての広報・周知を徹底する。また、家庭用生ごみ処理容器を利用する市民（特に新規）に対しては、利用を継続できるよう、随時委託団体によるサポートを行う。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ごみ減量啓発事業	事業期間	平成 3 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみの分別や減量について出前講座や広報媒体を通じて市民に周知することで、市民の意識高揚を図る。ごみカレンダー・分別表を配布し、ごみの適正排出を促す。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・広報啓発 50件（市報21件、生活情報誌3件、新聞記事9件、テレビ・ラジオ・その他17件） ・ごみカレンダー・分別表配布 市内約10万世帯 ・職員出前講座 20件 ・家庭で余った食品を寄付する「フードドライブ」に関する広報をエコプラザ等で実施した。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	6,244	3,526	3,647		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
家庭系ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
54,618	52,090 52,760	51,728 51,624	51,511	51,034		

成果指標②						単位
1人1日あたりの家庭系ごみ排出量						g
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
646	615 627	611 616	608	605		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	昨年度と比較して、ごみ減量につなげることはできたが、成果指標②の目標達成にはいたらなかった。市民の行動変容を促すために、直接啓発する機会を増やしたい。今後とも様々な広報媒体を活用した周知広報に努めていきたい。



成果目標達成に向けた対応策等
様々な広報媒体を活用し、家庭で出来るごみ減量方法やリユースについて情報提供するとともに、ごみ分別やリサイクルについての周知広報を徹底する。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	有料指定袋事業	事業期間	平成 8 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 総務係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ごみを排出する際に利用する指定袋を有料にすることで、ごみの排出量に応じた費用負担となることから、ごみの減量やリサイクルの推進につなげる。 ごみ処理施設の統廃合に伴い、指定袋の仕様について一部を旧佐賀市のものに統合しており、「諸富町及び三瀬地区」の7種類と、「その他の地区」で9種類の合計16種類を取り扱っている。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	○指定ごみ袋の製造枚数：12,013,600枚（佐賀市合計） ○指定袋取扱店数：391店（支店、自治会等を含む）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	184,831	186,424	187,993		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
資源化率						%
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	R4 実績
18.6	19.5	19.8	20.2	20.5	18.0	18.7

成果指標②						単位
家庭系ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標	R3 実績	R4 実績
54,618	52,090	51,728	51,511	51,034	52,760	51,624

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	昨年度と比較して、ごみ減量につなげることができたが、成果指標①の目標達成にはいたらなかった。今後も、市民に対してごみの減量やリサイクルの推進の取り組みを続けていく。



成果目標達成に向けた対応策等
脊振広域クリーンセンターの閉鎖に伴い、令和6年度から全市域で指定ごみ袋の仕様を統一する。 また、将来的な指定ごみ袋のあり方について、ごみ処理費用に応じた適正な価格設定となるよう検討を行う。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	資源物集団回収奨励事業	事業期間	平成 8 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	自主的に資源物回収運動を実施している団体に対して奨励金を交付することにより、佐賀市のごみの減量および資源の有効利用を図る。				
事業の対象者	佐賀市内の営利を目的としない住民団体（例：自治会、子ども会、婦人会等）				
令和4年度 主な活動実績	登録申請団体 193団体 奨励金交付団体（集団回収実施団体） 183団体 回収資源物量 721,990kg				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,565	2,395	2,166		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
資源物回収量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
855	900 798	900 722	900	900		

成果指標②						単位
回収実施団体数						団体
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
188	190 188	190 183	190	190		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	近年のペーパーレス化による新聞や雑誌などの回収量減に加え、コロナ禍の影響もあって資源物回収が出来なかった団体が多かった。



成果目標達成に向けた対応策等
近年の資源物回収量の減少傾向は、ペーパーレス化による新聞や雑誌などの消費量減が大きく影響していると思われるため、回収量の増加は困難と思われるが、燃えるごみに混入する紙類もまだまだ多いと思われるため、更なる分別の周知には努めていきたい。また、コロナ禍の影響もあって資源物回収が出来なかった団体へも状況を見ながら資源物回収の実施を働きかけていく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	容器包装リサイクル法関連業務	事業期間	平成 9 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	市民から分別収集した容器包装廃棄物のうち、ペットボトル、ガラスびんを国の指定法人に引渡し、再商品化を促進することで、一般廃棄物の減量及び廃棄物の適正な処理、資源の有効利用を図る。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	○国指定法人への引渡実績 ※脊振広域クリーンセンター処理分（諸富町・三瀬地区）を除く ・無色びん：519.62 t ・茶びん：502.86 t ・その他びん：257.16 t ・ペットボトル：506.53 t				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,062	986	1,129		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
ペットボトル引渡実績						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
493	501.1 490.6	514.1 506.5	527.5	541.2		

成果指標②						単位
びん類引渡実績（無色びん+茶びん+その他びん）						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1,341	1,298.7 1,267.1	1,272.1 1,279.6	1,246.0	1,220.6		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	近年PET容器の出荷本数は増大傾向にあるが、容器の軽量化等により国指定法人への引渡量は微増。また、びん類の引渡実績も大きな増減は見られない。市民への分別ルールの周知徹底に努めるとともに、マイボトルの推進など排出量の削減にも努める必要がある。

成果目標達成に向けた対応策等

容器包装リサイクルの推進のためには、異物除去を徹底する必要があるため、市民への分別ルールの周知広報に継続して努める。また、プラスチック資源循環促進法の施行により、容器包装廃棄物の量にも影響が生じられると思われる。社会情勢の変化等も加味しながら、適切な分別収集計画の策定に努め、容器包装廃棄物の排出量削減とリサイクル推進を図っていく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	不法投棄防止対策経費	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	廃棄物の不法投棄は、環境を汚染したり、景観を損なうなど生活環境を悪化させるため、ごみステーション等に不法投棄された廃棄物を処理業者に委託して処分する。また、道路等で死んでいる小動物の回収を行い、環境の保全を図る。				
事業の対象者	市民				
令和4年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄された廃消火器27本、テレビ等18点を処理業者に委託して処分 ・道路等の小動物の死がい回収した。(土日は業者に委託) 				
決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,163	1,274	1,383		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
不法投棄物や小動物の適正収集						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100 100	100 100	100	100		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	不法投棄されたものや小動物について、適正に回収、処分がなされている。



成果目標達成に向けた対応策等
不法投棄されたものや小動物について、適正に回収、処分がなされている。これからも適正処分・回収にむけて、委託業者へ指導していく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	事業系ごみ減量・リユース推進事業	事業期間	平成 11 ~ 令和 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	事業系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	事業系ごみ排出者責任の原則を市内の各事業者者に理解してもらうことで、ごみの排出抑制とリサイクルに対する意識の向上を図り、事業系ごみの減量化及び資源化を図る。年間36トン以上の一般廃棄物を排出する「多量排出事業者」には、廃棄物減量推進責任者の選任と廃棄物減量計画書の提出を義務化すると共に、研修会や訪問指導を行うことで、事業系ごみの排出抑制とリサイクル意識の向上を図る。				
事業の対象者	市内事業者				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・指導対象の多量排出事業者数 59件 ・事業所訪問数 5件 ・食品ロス削減マッチングサービス「SAGAタベスケ」を令和5年1月から実施 登録店舗数10件、登録者数991人 ・家で余った食品を寄付する「フードドライブ」に協力する事業所の広報等を行った。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	88	90	614		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
事業系ごみ排出量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
29,245	30,163 28,226	29,452 29,003	28,838	28,088		

成果指標②						単位
減量計画実践等により排出量を減量した事業者数						事業所
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
38	40 49	40 28	40	40		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	事業系ごみ排出量の目標は達成できたものの、コロナ過による社会活動の停滞が要因の一つに挙げられる。コロナが収束し、社会活動が活発になりつつあるため、今後とも事業所への周知広報に努め、ごみ減量を啓発していきたい。

成果目標達成に向けた対応策等

ごみ処理基本計画の目標を達成しているものの、前年度より事業系ごみ排出量は増加している。令和4年度より、期限の近い商品在庫や売れ残りそうな食品を出品できる「食品ロス削減マッチングサービス」を開始した。市内排出事業者に対するPRを強化するとともに、分別指導の徹底やリサイクル方法等の情報提供にも努めていく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

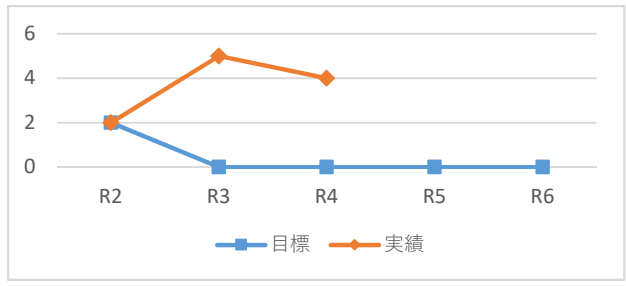
事務事業名	ごみステーション適正管理経費	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 廃棄物対策係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	ごみの適正処理	

1 事務事業の基本情報

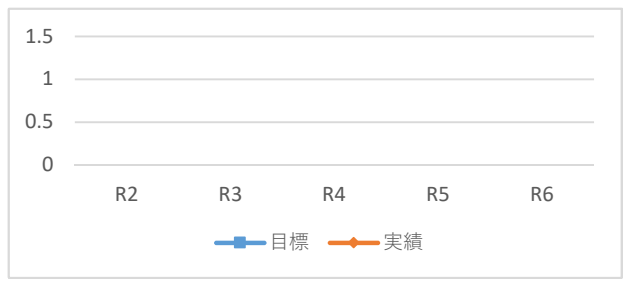
事業概要・目的	各家庭からごみステーションに出された再生資源物について、市または市の委託を受けて収集運搬を行う業者以外は収集運搬してはならないが、換金目的で持ち去りを行う者がいる。 再生資源の持ち去りを未然に防ぐ目的で希望する自治会に監視カメラを設置している。				
事業の対象者	市内住民				
令和4年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 再生資源物持ち去り防止を防ぐため、希望する自治会へ監視カメラを貸し出ししている。（貸出期限有。R4年度においては貸出希望無） 市民等からの情報提供をもとに、資源物持ち去り防止のパトロール、現地調査を実施した。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,829	2,955	3,022		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
再生資源物の持ち去り件数						件
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標		
2	0	0	0	0		
	5	4				



成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	通報を受けてからの現場調査や資源物持ち去り禁止の看板等で啓発を行っているが、ごみステーションからの持ち去りは続いている。資源物の中でも古紙類のみならず、不燃ごみから抜き去られていることもある。



成果目標達成に向けた対応策等
適正処理されることを期待して排出された資源物の持ち去り行為は、ごみの分別ルールを守っている市民の環境に配慮したりサイクル意識を著しく低下させることも懸念される。資源物持ち去りについて、今後もパトロールや自治会と協力して、持ち去り者「0」を目指す。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	事業系ごみリサイクル推進事業	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	事業系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市清掃工場に搬入される事業系ごみの大半は、生ごみや紙おむつ等が占める。これらの減量に向けて、排出事業者が自己処理を行うための「生ごみ処理機導入費補助制度」の活用や「食品リサイクル産業支援のための補助制度」の検討、さらには「紙おむつのリサイクル」に向けた研究等を行う。				
事業の対象者	市内に事業所を有する事業者				
令和4年度 主な活動実績	生ごみ処理機導入に向けた事業所訪問等は10事業所。 コロナ禍で設備投資が難しい等の理由により導入は断念との回答が2事業所。他は継続審議中。				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,760	0	0		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
生ごみ処理機による処理量						t
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
9	14 2	14 2	14	14		

成果指標②						単位
生ごみ処理機導入件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1	2 0	2 0	2	2		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	生ごみ処理機の新規導入はなかった。機械設備の導入については、当面コロナ禍の影響により難しい状況が続くとみられる。リサイクルの着眼点をコスト面からのアプローチだけではなく、SDGsへの貢献として大きな視点での取り組みもPRしながらのアプローチも試みたい。

成果目標達成に向けた対応策等

近年、企業のSDGsへの貢献意欲が増していることから、「ゼロカーボンシティさがし推進パートナー制度」のPRを併行して進めることで、生ごみ処理機導入への意欲向上に繋げていきたい。今後も継続して事業者への適切な情報提供に努めながら、紙おむつなど新たなリサイクルに向けた情報収集等にも努めていきたい。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	次世代型バイオ燃料実用化事業	事業期間	平成 30 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	再生可能エネルギーの普及促進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	従来、廃食用油から精製していた軽油の代替燃料は、排ガス規制強化後の新型ディーゼルエンジンには適応せず、使用できる車両が減少してきていた。このため、高品質のバイオディーゼル燃料（HiBD）を導入・精製し、市営バスやごみ収集車等の燃料として利用することで循環型社会及び脱炭素社会へ貢献する。また、「付加価値の創出」や「廃食用油を原料としたバイオジェット燃料の精製」などの民間研究について支援等を行う。				
事業の対象者	廃食用油を排出する市民及び市内の事業所				
令和4年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内回収BOX設置数及び回収量 103か所 64,001ℓ ・市内回収事業所数及び回収量 166か所 50,679ℓ ・ファミリーマートとの連携協定に基づき、コンビニエンスストア店舗（9店舗）からの使用済み食用油を回収 ・HiBDの使用車両（軽油との混合利用）：市営バス全車両（約70台）、ごみ収集車4台 ・民間事業者との共同研究 2件 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	492	282	0		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
廃食用油回収量						ℓ
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
123,561	125,000 119,379	130,000 114,680	140,000	150,000		

成果指標②						単位
高品質バイオディーゼル燃料（HiBD）使用量						ℓ
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1,928	26,000 9,796	30,000 27,979	40,000	50,000		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	令和4年度は、適宜必要な改良や運転方法の改善に努めたことで品質の安定化が図られてきたため、精製量が増加してきた。また、市営バスの全車両でHiBDの使用が可能となったことから、使用量も増加した。廃食用油の量的確保については、今後工夫する必要がある。

成果目標達成に向けた対応策等

HiBDの品質の安定化が図られてきたため、今後は精製プラントの安定稼働と精製量の更なる増加に努めるとともに、原料となる廃食用油については、食用油価格の高騰、消費量の減少等により回収量の減少傾向が見られるが、引き続き市民や飲食店等への周知広報に努めていく。また、HiBDはその汎用性の高さから、民間企業からの問い合わせや実証研究の引き合い等も増えており、引き続きHiBDの付加価値創出に向けた検討・研究も行っていく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	エコプラザ管理運営事業	事業期間	平成 15 ~ 年度
担当部署・係名	循環型社会推進課 3R推進係	担当課長名	馬場 佳子
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	20持続可能な循環型社会の構築	
	基本事業	家庭系ごみのリデュースとリユース・リサイクル	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市の環境学習の拠点施設であるエコプラザにおいて、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を始めとし、環境全般をテーマとした講座・イベントの実施と情報発信、また、施設見学案内、再生品の販売などを実施する。それにより廃棄物の発生抑制や再利用、廃棄物の適切な分別などに関する市民の意識を向上させ、豊かな自然を守るとともに、ものを大切に、環境に配慮した生活スタイルを身につけさせる。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	3Rを始めとし、環境全般をテーマとした講座・イベントの実施と情報発信、また、施設見学案内、再生品の販売などを行った。また、環境学習を促すため、中央ホールと体験学習コーナーをリニューアルした。 ・施設見学・視察：241団体（7,054人）、会議室利用：180団体（6,557人） ・環境啓発に関する講座：92回（参加者609人） ・環境に関するイベント（エコマーケット等）：19回（参加者2,491人）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	19,574	19,768	23,947		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
総来館者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
27,883	30,000 30,375	32,500 31,846	35,000	37,000		

Year	Target	Actual
R2	37,000	27,883
R3	30,000	30,375
R4	32,500	31,846
R5	35,000	
R6	37,000	

成果指標②						単位
各種講座・イベント参加者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,808	4,000 2,411	5,000 3,100	6,000	6,500		

Year	Target	Actual
R2	6,500	2,808
R3	4,000	2,411
R4	5,000	3,100
R5	6,000	
R6	6,500	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	令和4年度も引き続きコロナ禍の影響はあったが、徐々に来館者は戻りつつある。イベントについては、台風やコロナ感染対策としての入場制限等もあり、来場者数が伸びなかった。各種講座についても例年に比べ、実施回数が少なかった（令和3年度102講座615人⇒令和4年度92講座609人）。

成果目標達成に向けた対応策等

今後ともエコプラザが目指す「集う」「学ぶ」「結ぶ」のコンセプトのもと、気軽に来館できるイベント等の実施や、家庭での実践行動に繋がるような各種講座を開催するとともに、エコプラザ利用者や利用団体等を相互に繋げることで、地域課題や社会課題の解決に繋がるように努める。また、動画の配信やSNSの活用を積極的に行うことで、若年層に向けた情報発信にも努めていく。